

(別添 4)

【地方公共団体の名称】

1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1. 1 人 1 台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての児童生徒の可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」の内容等にはICTの活用と少人数によるきめ細かな指導体制の整備による「個別最適な学び」と、これまでも日本型学校教育において重視されてきた「協働的な学び」を一体的に充実し、児童生徒の資質・能力を育成することが求められている。

まず、「個別最適な学び」の実現のため、一人ひとりの児童生徒の実態に応じた学習計画に基づき児童生徒が1人1台端末を通じて、場所や個人の資質、環境にとらわれず、個々の理解度や学習ペースに合わせた学びを目指す。

「協働的な学び」の実現のため、1人1台端末を通じて他の児童生徒や地域の枠を超えて他者と交流することにより、児童生徒が他者の多様な考えに触れ、自己の考えを広げ高める学びを目指す。

これらの目標の実現に向けて、通信ネットワーク等のICT環境を一体的に整備し、基盤的なツールとして効果的な利活用を図る。

2. GIGA第1期の総括

加賀市では、GIGAスクール構想に先駆けて令和元年度にwindowsのタブレット端末を3,966台導入した。令和2年度には元年度に導入した端末と併せて、端末の使用が想定されていない小学校1年生以外の学年に端末が行き渡るように3,986台を導入し、一部の小規模校を除いた学校に通信ネットワークの整備を行った。このことにより、学校現場における教科や学習場面に応じた情報の収集、理解、整理、発信、共有及び個別の学びのツールとして1人1台端末の日常的な利活用を図った。

また、教員によるICT活用のための研修会の充実を図るとともに、各学校にICTを活用した研修会を定期的に行うことで、教員の関心を高め、指導力向上に寄与した。

さらに、ネットワークや端末の不具合が発生した際に迅速に対応できるようにヘルプデスクを設置したほか、学校の要望に応じてICT支援員を派遣できるようにしたことで、各教員が授業に積極的に端末を活用できる環境づくりを行った。

コロナ禍で児童生徒が学校への登校が難しい場合には、端末の持ち帰りも実施した。その際、自宅においてネットワーク環境が整備されていない児童生徒の家庭にはモバイルルーターの貸し出しも実施した。

その一方で、経年劣化によるタブレット端末の故障や、児童生徒の過失による破損といった形で端末を修繕に出す際に予備機の余裕がなかったことで、一時的に教員の端末を貸与する等の対応を迫られることもあった。

また、一部ではICTの活用が進んだ結果、動画の編集等を行う際に端末の処理速度が追いつかず、端末の性能が不足している部分も見受けられた。

3. 1人1台端末の利活用方策

ICT支援員等の配置を継続し、教職員に向けてICTを活用した教材、他校の実践事例の紹介及びICTを活用した授業提案を行うことで、1人1台端末を日常的に活用できるよう教員のICT活用スキルの更なる向上を図る。

また、児童生徒が自身で調べる場面、自分の考えをまとめ発表・表現する場面及び児童生徒同士や教員とやりとりする場面においてソフトウェアを活用し、全体で共有できる仕組みづくりを行うことで、1人1台端末を積極的に活用し協働的な学びに繋げる。

加えて、自宅にネット環境のない家庭に対してはモバイルルーターを貸与することで、端末の持ち帰りを日常的に行い、自宅学習にも活用することで、場所にとらわれない端末の利活用を推進する。併せてデジタルAIドリルの活用を継続することで、一人ひとりの理解度に応じて学習を行い、端末を通じての学力の向上に寄与する。